

【レポート】

近年のサウナブームに乗じて、自治体においてもサウナを活用した地域振興に係る取り組みが行われています。出雲市においては自治体としてではなく、サウナ好き市職員が業務外の時間を利用して、サウナを活用した地域振興に係る取り組みを行っています。その活動内容を報告します。

フィンランド発祥のサウナを活用した地域振興について

島根県本部／出雲市職員連合労働組合 常松 洋平・大島晋太郎

1. はじめに

1964年に東京オリンピックの選手村にサウナが設置されたことがきっかけで第1次サウナブームが到来し、1990年代にスーパー銭湯等の温浴施設の建設増加に伴い第2次サウナブームが到来し、2019年にサウナをテーマとした漫画「サ道」がドラマ化されサウナの健康効果や効果的な入り方が広まり、第3次サウナブームが到来しました。

第3次サウナブームでは、温浴施設のサウナが流行するだけでなく、新型コロナウイルス感染防止のため、ビーチやキャンプ場等の野外にテントサウナを設置してサウナに入る「アウトドアサウナ」が新たに広まりました。サウナで体を温めた後は、自然の水風呂である海や川に飛び込んで体を冷やし、自然の中で風に吹かれながら外気浴をして体を休めます。アウトドアサウナは非日常を味わうことができ、新たな観光資源としての可能性を秘めています。サウナを活用した地域振興に取り組む自治体も現れ、お隣の鳥取県では2021年9月に「ととのうとっとり」プロジェクトを立ち上げ、県外から観光客を呼び込もうとサウナツーリズムを推進されています。



【テントサウナ】



【自然の水風呂（川）】



【自然の中で外気浴】

2. サウナにおける出雲市の強み

2022年4月当時、サウナ好きである我々は、鳥取県の先進的な取り組みに触発され、出雲市においてもサウナを活用した地域振興に取り組みたいと強く思い、まずはサウナにおける出雲市の強みを検討しました。検討した結果、出雲市には次のとおり3つの強みがあると感じました。

(1) フィンランドと交流がありサウナ文化を推進する体制が整っている

① カラヨキ市（フィンランド）との友好姉妹都市提携

出雲市では、合併前の多伎町が道の駅「キララ多伎」を北欧風のデザインに決定したことを契機にフィンランドとの交流が始まり、ともに美しい海岸を活かしたまちづくりを進めているカラヨキ市と

2003年に友好姉妹都市となりました。合併後も出雲市が引き継ぎ、フィンランド国際交流員の招致や、中高生のホームステイによる相互派遣事業などの交流を実施しています。フィンランドの都市と姉妹交流・友好関係にある日本の自治体は、5自治体あります。

(内訳：島根県出雲市、青森県深浦町、北海道壮瞥町、北海道奈井江町、埼玉県新座市)

② フィンランド国際交流員

出雲市にはフィンランド国際交流員が常駐しており、様々なフィンランド文化体験講座を開催しています。フィンランド国際交流員は全国で4人います。

(内訳：島根県出雲市、島根県邑南町、佐賀県、北海道)

③ NPO法人出雲フィンランド協会

NPO法人出雲フィンランド協会は、生活・文化・スポーツ・教育・経済等の交流を通じて、出雲市民並びに会員とフィンランドとの相互理解を深め、友好・親善関係を推進することを目的として設立されました。フィンランド協会は全国で22団体あります。

(2) 山陰屈指のサウナ都市「出雲市」

キララコテージ(出雲市多伎町)には、フィンランドとの交流がきっかけでフィンランドから輸入したサウナ付きログハウスが10棟あります。また、昨今のサウナブームの影響により、出雲市においてもサウナ施設のオープンやサウナの新設・増設等が相次ぎました。主なものとしては、2021年4月に日本三美人の湯で知られる湯の川温泉の四季荘(出雲市斐川町)にサウナが新設され、2021年12月にサウナリゾートオリエンタル出雲～神楽の湯～(出雲市今市町)がオープンし、2022年4月に一畑薬師境内にある一畑山コテージ(出雲市小境町)にサウナが新設されました。

特に四季荘は、某サウナ番組で取り上げられ、日本最大のサウナ検索サイト「サウナイキタイ」において、山陰地方のサウナ施設で「イキタイ」の数が第1位、中国・四国地方では第3位になり、人気施設になりました。

(3) アウトドアサウナを満喫できる場所がある

アウトドアサウナの醍醐味は、自然の水風呂である海や川に飛び込み、開放的な自然環境の中で外気浴をすることです。また、アウトドアでサウナを快適に利用するには、シャワーや更衣室等が整備されている必要があります。出雲市内においてこれらの条件を満たしている場所は、岐久海岸海水浴場(通称キララビーチ・出雲市多伎町)、立久恵峡わかあゆの里キャンプ場(出雲市乙立町)があります。

3. サウナを活用した政策立案をするため若手職員政策研究に参加

フィンランドの都市との友好姉妹都市提携、フィンランド国際交流員、フィンランド協会の全てが存在している都市は全国で唯一出雲市だけです。そして出雲市においてもサウナブームが到来しています。このサウナブームをさらに加速させ、サウナで出雲市を盛り上げたいという思いはあるものの、所属している部署はサウナとは一切関係ない福祉関係の部署でした。そこで、市の若手職員の政策立案能力の向上等を目的として毎年度実施されている「若手職員政策研究」に参加し、サウナを活用した政策立案を行うことにしました。

2022年6月から活動を開始し、2022年11月に市長、副市長、教育長、研究テーマに関わる部署の長等に対して政策(案)を発表します。当初は、市の政策として採用されることをめざしていましたが、視察を重ねていくうちに、自分たちでもアウトドアサウナイベントを開催し、市の事業化を待たずして地域振興に寄与することができるのではないかと感じるようになり、イベント開催に向けて準備をすることにしました。

(1) アウトドアサウナイベントの開催に向けての準備

① 開催場所

カラヨキ市と友好姉妹都市提携をするきっかけとなった出雲市多伎町の美しい海岸にあるキララビーチ（岐久海岸海水浴場）で開催したいと考えました。シャワーや更衣室等が整備されておりイベント参加者の利便性も確保できます。この設備を管理している(株)多伎振興に対して、イベント開催の趣旨を説明したところ賛同いただき、設備の使用許可をいただくことができました。

② 予算の確保

出雲市多伎町には「多伎元気な会」という団体があります。高速道路（山陰自動車道の多伎IC～出雲IC）が開通した後も「素通りの町にならないまちづくり」をモットーに“多伎地域が元気なまま次の代へ引き継ぐ”という思いから2021年8月に設立されました（しまね流福祉のまちづくり活動団体として2024年2月に県知事表彰を受賞）。この「多伎元気な会」及び「NPO法人出雲フィンランド協会」に対して、イベント開催の趣旨を説明したところ賛同いただき、主催者として予算を負担していただけることになりました。

③ テントサウナの手配及び安全管理

元々サウナがないキララビーチでサウナイベントを開催するには、持ち運び可能なテントサウナを使用する必要があります。テントサウナは、テント内に薪ストーブを設置して体を温めます。そのため、薪ストーブの不用意な取り扱いによる火傷や火災、薪の不完全燃焼による一酸化炭素中毒の恐れがあることから、正しい使用方法を身に付ける必要があります。また、強風によりテントが飛ばされたり、川原の場合は増水時に流される恐れがあることから、地形や天候の確認も必要です。私はテントサウナに入った経験はあったものの、管理した経験は無かったため、管理はサウナ専門業者へ委託することにしました。

④ 各種法令の許可申請

アウトドアサウナは公衆浴場法における「その他公衆浴場」に分類され、業として実施する場合は公衆浴場法に基づく許可が必要となります。そのため、今回のように1日間しか開催しないイベントについても、常設のスーパー銭湯等と同じ設備要件が適用されることとなります。自治体によっては基準を緩和して適用されている場合もありますが、基準をそのまま適用したり、新たなサウナ業態であるアウトドアサウナ自体を許可しないという取り扱いをされている自治体もあり、イベントの開催を断念された事例もあります。出雲市の管轄は出雲保健所ですが、幸いにも柔軟な対応をしていただき、公衆浴場の営業許可を取得することができました。また、その他の許可申請として、海岸を占用するために出雲県土整備事務所から占用許可をいただき、出雲消防署多伎分署へは火災とまぎらわしい煙又は火災を発する恐れのある行為の届出書を提出しました。

⑤ 周知

2022年6月にサウナ好き市職員有志とともに設立した出雲市役所サウナ部のSNS、市内温浴施設へのチラシ配布、イベント情報を掲載している媒体へ掲載依頼等を行いました。

(2) アウトドアサウナイベントの開催

① 開催内容

2022年10月30日にキララビーチでアウトドアサウナイベントを開催しました。海水浴場のオフシーズンでしたが52人の参加がありました。当初は寒さを懸念していましたが、参加者はサウナに入った後に季節外れの海水浴を楽しんでいました。10月末に海水浴という新鮮な光景はアウトドアサウナならではの、オフシーズンのビーチへの集客コンテンツとして効果があると感じました。

多岐の日
ウィークイベント

IZUMO FINLAND SAUNA FESTIVAL in KIRARA BEACH

出雲
フィンランド
Outdoor
サウナフェス
In キララビーチ

フィンランドとつながりの深い出雲市でついにテントサウナの開催が実現!
絶景キララビーチで楽しむのじやう!

10月30日(日)
11時~17時

第1部 11時~14時 / 定員 24人
第2部 14時~17時 / 定員 24人

場所 / キララビーチ西側 (出雲市多岐町多岐135-1)

利用料金 大人1名につき 税込2,000円 (3時間制)

【テントサウナ体験】
・10分以内のサウナ体験 (男女別) / 小童専用
・フィンランドの伝統的なサウナ体験 (アフター5限定)

【フィンランド文化紹介】(予約不要)
・フィンランドの歴史や文化について
・フィンランドの伝統的なサウナ体験
・フィンランドの音楽

山陰中央新報社

出雲市役所サウナ部
0961-83-1111
0961-83-1111
0961-83-1111

海辺でサウナ楽しむ

【出雲】出雲市多岐町多岐の海水浴場キララビーチで30日、出雲フィンランドサウナフェスが開かれ、市内を中心に島根県内外から訪れた愛好者約50人がテントサウナと日本海を眺めながらの外気浴を楽しんだ。

出雲市は合併前の旧多岐町時代から、バルト海に面するフィンランド・カラヨキ市と交流し、友好姉妹都市協定を結んでいる。サウナの本場とのつながりを生かして地域を盛り上げようと市職員の愛好家づくると

熱波師(右)が送る熱風を感じながらサウナを楽しむ参加者＝出雲市多岐町多岐、キララビーチ

役所サウナ部が企画し、NPO法人出雲フィンランド協会、多岐元気な会が初めて開いた。参加者は100度ほどの室温になったテントサウナで汗をかいた後、海や水風呂に入り、日本海の眺望と潮風を堪能。アロマオイルを入れた水を蒸発させた香りの良い熱風を熱波師がタオルであおいで送るサービスもあり、心地良いひとときを過ごした。

テントサウナを初めて体験した松江市浜乃木1丁目(51)の会社員伊達裕樹さん(51)は「海も見えてすぐく気持ち良く、非日常を味わえた」と話した。

(月森かな子)

紙面編集・田中 達朗
©山陰中央新報社

山陰中央新報 (2022年10月31日発行)



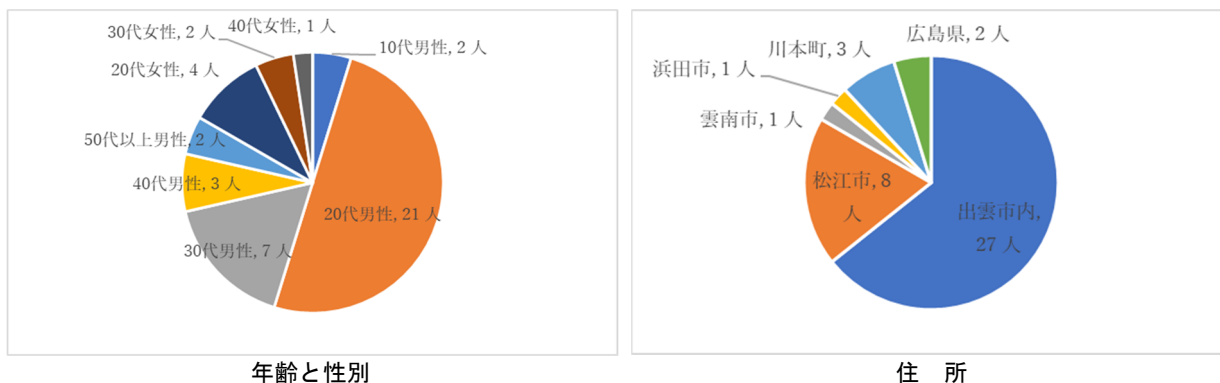
自然の水風呂「海」へ飛び込む参加者



外気浴でととのう参加者

② アンケートの実施

参加者アンケートを実施し、52人中42人から回答を得ました。回答者の半数は20代と年齢層が若く、出雲市外からの参加者は15人でした。イベントの感想について「非常に良かった」「良かった」が41人であり、高評価をいただきました。「定期的に開催して欲しい」という意見が多く、アウトドアサウナとキララビーチの魅力を多くの方に伝えることができたと感じました。また、出雲市とカラヨキ市との友好姉妹都市提携については「知らなかった」が36人と知名度が低く、出雲市とカラヨキ市のつながりをPRしていく必要性を感じました。



③ 地域おこし協力隊員との協働

本イベントでは、多伎地区の地域おこし協力隊員と、サウナを活用して地域振興をしたいという思いから2022年10月に着任した乙立地区の地域おこし協力隊員と協働し、サウナイベントをより一層魅力的なものにすることができました。

(3) 若手職員政策研究の発表

2022年11月、サウナを活用した地域振興に係る取り組みについて、市長、副市長、教育長、研究テーマに関わる部署の長等に対して発表しました。地元団体を巻き込みながら実際にイベントを開催したその行動力に対して高い評価をいただきました。

4. 若手職員政策研究終了後の取り組み

(1) テントサウナの安全管理に係る技能習得

テントサウナを2基入手しました。このテントサウナを使用して安全管理に係る技能を習得することができ、サウナ専門業者に委託しなくてもイベントを開催できるようになりました。その結果、開催費用の縮減につながり、イベント開催のハードルが下がりました。

(2) 定期的なアウトドアサウナイベントの開催

2023年6月、2023年10月、2024年6月の計3回イベントを開催しました。2024年6月開催時は、出雲市職員連合労働組合の自治研活動も兼ねて実施しました。今後も定期的にキララビーチでアウトドアサウナイベントを開催する予定であり、次回は2024年9月の開催を予定しています。

(3) カラヨキ市からの来賓をサウナでおもてなし

2023年11月、出雲市とカラヨキ市の友好姉妹都市提携が20周年を迎えることを記念して、カラヨキ市の議長ご夫妻と市長ご夫妻が出雲市を訪問され、滞在中、キララビーチでアウトドアサウナを体験していただきました。

(4) 地域おこし協力隊員との協働

立久恵峡わかあゆの里キャンプ場（出雲市乙立町）において、乙立地区の地域おこし協力隊員が主催したアウトドアサウナイベントに、テントサウナ2基を貸し出し、運営及び安全管理等の協力を行いました。



カラヨキ市からの来賓と記念撮影

(5) 公衆浴場法の改善要望

近年新たに広まったアウトドアサウナは、昭和に制定された公衆浴場法では対応できない部分があると感じました。一般社団法人日本サウナ学会が、サウナの法制化へ向けて意見書を作成することを知ったため、公衆浴場の営業許可を取得した経験から感じた課題や改善点を、一般社団法人日本サウナ学会へ提出しました。

5. まとめ

今回の取り組みは、出雲市がこれまで育んできたフィンランドとのつながりという強力な理由、地元団体や関係者の協力をいただくことで行うことができました。市職員という立場のおかげか地元団体の協力が得やすかったと感じましたし、この取り組みを通じて地域の方々や市内外のサウナ関係の方々とつながることができました。このつながりを生かしてアウトドアサウナイベントの魅力を向上させ、サウナをきっかけとして出雲市に関心を持ってもらい、微力ながらも地域振興に寄与していきます。